

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

688-743

事務事業名	市誌編さん事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	歴史研究所		包含する細々目	1	10	5	8	11	4	4,500
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	62 地域資源の資産化											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	事業中期的計画(2002.8.30)		事業答申(2002.4.2)		飯田市歴史研究所条例、規則、任期付研究員採用条例		
		事業期間	16	年度～	年度	関連計画条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・市民	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			107844	107000			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	飯田・下伊那の歴史を知る。	一般向け図書の配布・販売数(単年度)	18目標	500	最終目標	500	
			18実績	658	19目標	1000	↑
			23目標	500	23実績		最終目標達成年度
		子供向け図書の配布・販売数(単年度)	18目標	50	最終目標	100	
		18実績	123	19目標	100	↑	
		23目標	100	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<p>永続的な市誌編さん事業に取り組む。資料編を重視し、通史編をその延長・成果に位置づける。</p> <p>第1期計画期間の最終年度(平成19年度)にあたる市制70周年に際し、記念事業として図誌および聞き書き集を刊行し、地域の歴史文化の再発見、地域づくりの基礎となる検討材料提示と構想の方向性を提起する。</p> <p>また、次代を担う子ども達を対象に、好奇心を養い、郷土への関心を深めてもらうため、飯田・下伊那の歴史などをテーマとした図書の企画・出版を行う。</p>	<p>・市民ライブラリー第1巻『満州移民』刊行</p> <p>・『みる・よむ・まなぶ 飯田・下伊那の歴史』刊行準備、写真撮影、制作活動</p> <p>・聞き書き『飯田市の70年』(仮題)刊行準備、制作活動</p> <p>・市誌資料編刊行準備</p>	<p>・一般向け図書刊行部数</p>	2000部
		<p>市制70周年記念として</p> <p>・『みる・よむ・まなぶ 飯田・下伊那の歴史』図誌刊行</p> <p>・聞き書き『飯田市の70年』(仮題)刊行</p> <p>・子供向け図書第2巻の刊行準備</p> <p>・市誌資料編刊行準備</p>	<p>・『みる・よむ・まなぶ 飯田・下伊那の歴史』の図誌刊行部数</p> <p>・聞き書き『飯田市の70年』(仮題)の刊行部数</p>	2000部 1000部

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	国庫支出金		
	特定財源		
	県支出金		
	起債		
	その他	50	1,550
	一般財源	2,950	2,950
	事業費計(A)	3,000	4,500
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,200	19年度 1,200
	臨時職員等所要時間	800	800
	人件費計(B)	5,151	5,151
	トータルコストA+B	8,151	9,651

特定財源内訳や補足事項	書籍販売収入
-------------	--------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	価値が顕在化され高まる。地域資産が認知される。	活用できる状態が整った地域資産の数	現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	520
	地域資産を知っている市民の割合: %	地域資産を知っている市民の割合: %	現状値	42	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	50	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
市制60周年の平成9年度から市誌編さん事業を開始し、市制70周年を迎える平成19年度に刊行が終了するよう進めていたが、市民や専門家の意見等を参考に事業の抜本的な見直しを行い、平成15年度から新たに事業を再スタートさせた。 資料編を重視し、通史編をその延長・成果に位置づけ、永続的に市誌編さん事業に取り組み、出版活動を通じて、研究成果を市民に報告していく。	特に変化はない。	ジュニア・ライブラリー1『わたしたちの飯田線』は、好評をもって市民や議員などに受け入れられている。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 地域史を知ることができる刊行物の発行により、地域資源の価値を明らかにし、市民に認知される。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 地域史研究に関わる民間研究団体等との連携により、さらに多くの地域に関わる情報・資料等を入手する事が可能となるとともに、協働により多様な視点から地域史を解明・評価することが可能となる。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 地域素材を基にした地域史研究の成果を、地域市民に公表する活動である。		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 影響あり (その理由) 地域史を体系的に整理していくことができなくなり、地域史ひいては地域を深く知ることができなくなる。また地域資源に経済的・文化的付加価値をつけたり、高めたりしていくことができなくなり、その積極的な活用による他施策での展開が図られなくなる。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 市民の歴史探求心に応える。			(評価) 関連事業あり (類似事業名、理由) 美術博物館・図書館との協働、生涯学習・スポーツ課との連携により、相互の研究を補うことができる。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 地道な地域史研究の成果として、後世に伝えるべき活動である。		効率性 評価	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？
公平性 評価				受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 市民。小・中学校や図書館等に配布し市民の学習活動に資するよう配慮する一方、希望者に有償で頒布している。刊行費用を考慮するとともに、市刊行の他出版物の頒布価格と均衡を図っており、負担の程度は妥当である。

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	平成19年度に、第1期計画期間のうち2003～06年度の実績について外部評価を行い、民間研究団体等との連携について第2期5か年計画(2008年度から2012年度)に反映させる。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	課題は民間研究団体等との対話を深めることであり、その克服は市誌資料編刊行の取り組みを着実に進めることである。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	